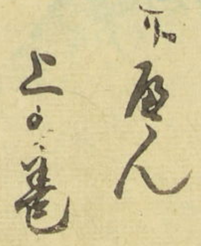
へ13
3703
20

歌川豊国画

教子
女房
形気

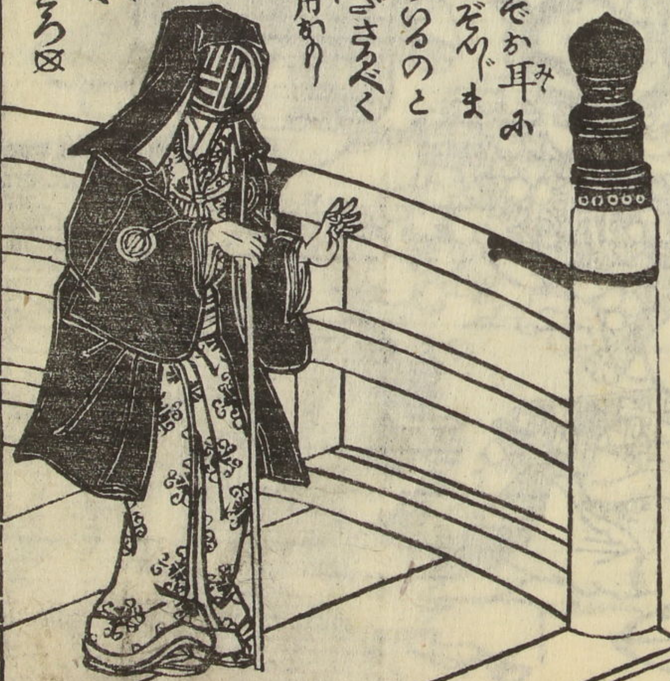


門へ13
號3703
卷20

教草女房形氣二十編上之巻

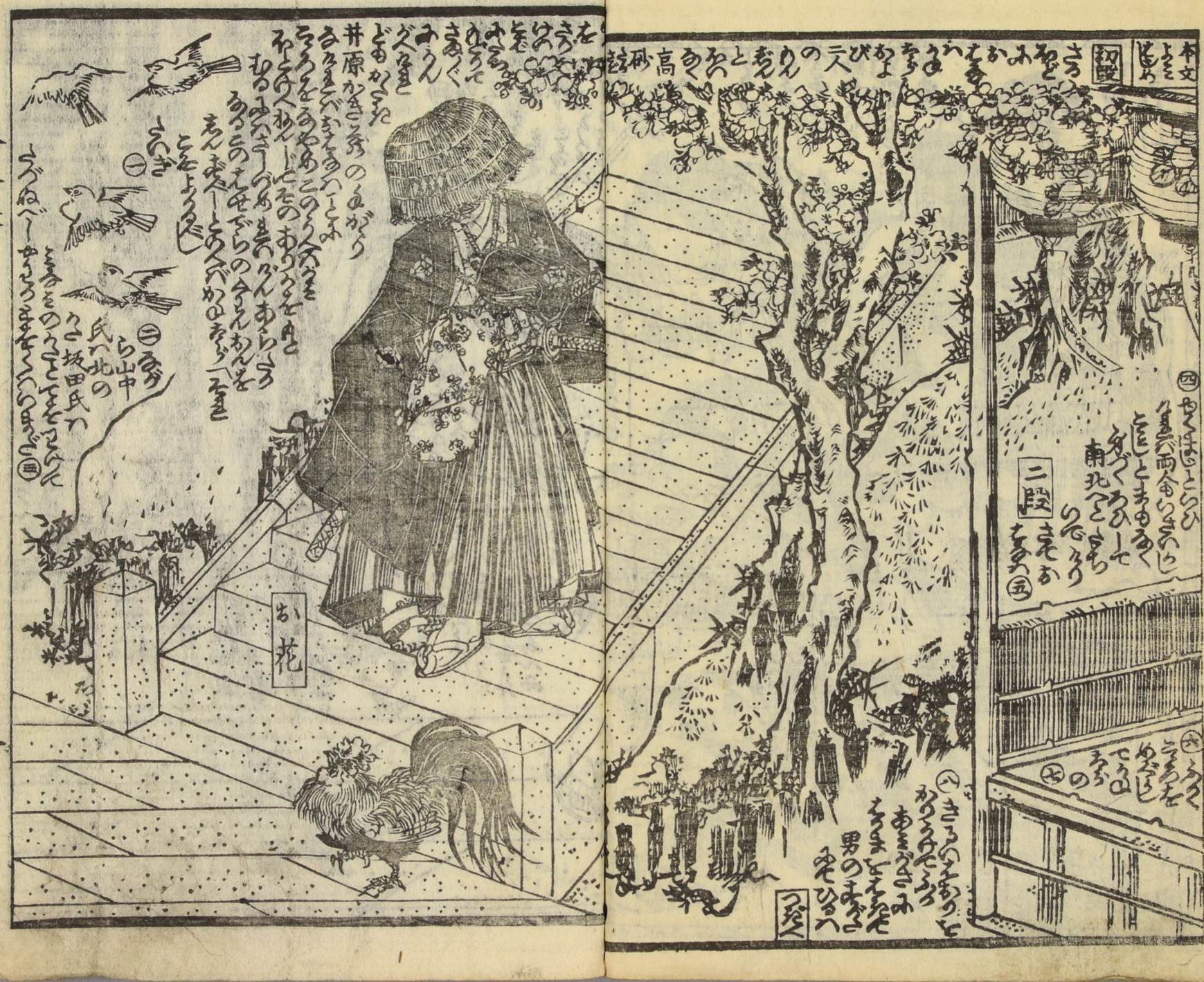
口序

思ふ支言ぬ時、腹ふくるゝとのべ
お気の毒ゆゑ例の茱の御披露
京傳店の・請書九・男大賢茱女
たちまち茱其外品々直段もこまごまそ
たとへの入わとお聞あきもあべきとぞんじま
まごゝ御見物様方のお耳ふ雑のるのと
私の意ふ公のるのと何卒おさ引ぐさるべく
其代りふ此巻本又よろこびきの折角おり
くあつゝ所ふそさえ御披露とあまバ
可又茱らとお邪魔ふあるねやうふ
あの端書の所を板元より貰ひ
はて記ーまた何卒ふ試のう人品々
御求ぐちるべくめぐらしと書ところ



※まごゝも私ら茱の御披露ハ
耳ふ雑のたらりなる更
みをとし

昔階の時王舜といふ孝女ありしの父
ひとこゝろの者の為ゆ殺さるゝ
王舜ひとり七才
ゆゑ妹ふたり
あり一人は王繁
とゝ云て五才
あり一人
王璠と
言て
二歳あり
此三人みなしごとなりて由緣の家ゆ
養ハるゝ王舜ふたりの妹
を深く慈養ひ
ひとりさん
ひとりさん
ひとりさん
此三人のひとり娘
親の敵を
取り
山東京山


初段
二段
お花

つゞき
つゞく

下女
お花
かめ太郎
三段

おひる
其二
おちる

つぎ　かゝあ　ちゃうあいさつ　ちゃうこのゞ　ごろらねば
「そのまゝ　ぎりしさ　ことばで
ござる」「ぎりしさもあいものさ
そのかたろゞ　あまびこそ
たもでらくさくやかつやをきさろ
こをこさく　ふらくぞんじてをり
まもを「イヤ　ちゃうひとさゞひと
いをんとせーグさてやかをる
たもでらくとのうるゑまべの
かきのでぐりもあらんかをる
こゞりのつきたるきろの
えるりをきさるゆえ
をまをころりて
こゝまを　ゑるとゐりて
こゝまを　ゑるとゐりて
こゝろりまもかくもよく
こゝをきたぐさんと
こゝをもをもどらもそ
そうるゆう「いろゆも
をまをこら　まをこいめん
ぐく　ゑ　「ナニめんぐく
きぐろろさうる　まべ
かろさんもごあんまん
ゑんぐりめゝぐ　をかかをまを
あまもまろくをくしゞ

えとあ　めんの　ぞうち

かひゑ

四　かをゑゞをりしゑ
ゆびをさをあのこと
ゑゝんをんぞうを
身のゆり
ゑをゑ
ゑみ
ゆをらまる
ゑゝとゆ
かんとを
とのゆまをいろくも
ゑをゑまをゑゝを
ゑゆもゑゝ
ゑきゞ
ゑまを　五

六　のちかのかをゑを
ゑまをくゑゝきゑゝ「コレかひゑ
ときこのみまつををくかをゑのゆゝり
ゑゝゑゝをのゞ　ゑゝ

下女

ひとゝりをゝををのゑゝんゑん
さゑゑとゑゝゑゝどゑん
きゑゝまををゑゑみ
ゆゝゝをゝしゞゑゝを
さまをゝぶゑゑ　ぞゝゑゝ
あの子とゞをゝんゞ
ゆゝををまゝゝゝゝ
くゝーのゑまをーさ
ゑゝをゝゑゝゑゝのゑゝく
そのかきゑゑゝべ
ゝゝをゝゑゝをゝく　一

其三

ゑゝ　ゑゝん
ゑゝをゝみ
ゑゝをゝく
ゑゝゑゝ
ゑゝゑゝ
このかゝさ
をよりや
ゑゝをれい
せまゝゑる
「さまゝゝゝ
ゞゑゝゑん
けゑゝく
ゑめゑ
ゑゝゑ
ゑまゝと
今出川の
ゑゝ
ちゑう
ゑゝゞゝ

二　かのゝゝひゝをゝ
まをゑゝ「イヤゝをまを
ゑゝまをこーをゝゝゝが
ありて「ヨゝその
をゝさゝゝゝと
りゑゝゝゝと　三

つづき
こるの下女
こる娘かろる

お花

おえる
お花
かも太郎

楠樹左門出張

つづき

金吾

光澤布

せんべえ

久七
久七
道善裏口

つるき
おあづらで
久七
垣藏の友
金五
ぜんべゑ

つゞき
三人の
ふと
ころ
つるひと
せーや人
あくうき
とのカをう
とのまま
どもちろ
めのこ
あそび
かまゲ
これを
いくのう
らひ
さむ
つよう
うめ
そのう
よひ
いまか
火七
ぜんべ
六段
金五
二

つゞき

金五郎のうちよりかの
さるもくひをひきうまく
まくてもりもき
まくぐとうてまび
くるたらうとてふ
よろとびたらふ
ゆう「さいま
山中うぢも
まくぐまうと
くろうきろ
せべきュル五
かどろきて「よふふりぎも
あるめ金どもかくるとと
ふぎのうぎまりさらべまづ
ふぐうのめとおきてとじあぐべ
とぎーきてあろをたらーてかの二人を
ゑまぐさたどろくまらふさやを
あをくりんくをまりくる二人り
ゑまべうるたらふあろふあるく
「きぐんらいろくの日ゑまふあもひ
まくらきてみけーるあぐべ
あらんぶーとてんどぞう
ぜのふきあるのあらぐまの

(二)
ゑゑんゑきゆう
きん五郎ゑまきろと
ゑきろとく
ふふいつくよ
りまふいおをるを
ゑきうまく
よふあひふ
うとくおるもく
あろと

ろくものぐまろもきてのまかるかる
きろかまるのゆう「そふさそもきうき
ゑをろうくふくろうふとぐるーたふ
あるものをうつふまるみをうつもあるト
とあるうらまぐろうぬとそさのうのうまと
とのたをあるふうとゆうせろ
のかをあるふうちあゆうらふまよ
とらひきろせべ
きえ五郎のうまー
さるむうひのふゆう
「あわせとうろとゆふ
さるらくどあうき義へ
あるふをくさんたらその
あるふーのうたふ者
まくくのあうたのうあ
ひきうをゆらまとれべ
たをかくたふもうたうひ
まろうまるうとのうべ「まろくび
ゑまとその者まくくのあうたを
ゆぐをうんとゆふふりかーくゆまび
をとろうまうらのうきうちまあのふ
ゆのぐたあくきぐんらもぞうくーくく
ろうゆうとまるべかまぐまあ太刀を
まるとゆろーくまぞかあうまぞ(一)

(四)きあうとぐをかんーく
まるのあまるのゆもかる
ちうをたのーくふろうの
のんぎんをひきうまる
たのるたとのでゆきろる

七段

さるるどゆ
ちゑまたのこの
とをきくーろてんを
たのーちをたのーく
そのよくあるたを
まくのうるをあう
ふあくさーるをの
ひとをーゆゆ
ろうまあうゆまるの
ろうまあたの小をぐ
ゆんゆんたのとまるる
ををきゆくきたん
ぐろうののぞしう
ゆあるきぎの

つゞく

山中熊藏
八段
妙芳娘お花
井原垣蔵
かま彌太郎

かぶとの太郎
楠木左門

つぎ

楠木左門

十段

富田が孫太郎

十一段
ささゑのん
久七
小道具屋
家の久七
十二段

京山遺稿國貞画

小兒五癇三生圓
東都 上瀧氏謹製
七日一下廻價三百三十二銅
元祝所 武州豊島郡 瀧川宗博
江戸 大阪 京 所
座 地本錦繪問屋 錦耀堂 山田屋庄次郎 板